秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場

あの夏の絵

作・演出＝福山啓子

こんなにも知らなかったということをはじめて知った

記憶を伝え残すために語り始めた被爆者と、それを受けとめ、絵に表現することに挑んだ高校生たちの 2015 年夏の物語。

この作品は、広島市立基町高校の生徒たちが現在も実際に取り組んでいる活動を元に舞台化したものです。3人の高校生を中心に、被爆者と向き合い、支え合い、成長しながら絵を完成させていく姿が描かれており、世代を超えて心が通じ合う温かな物語です。
戦後 80 年が経ち、被爆者の声を直接聞く機会がなくなる中で、この作品を観て、平和について語り合う機会になればと思っております。

写真：宿谷誠

美術＝石井強司　照明＝河﨑浩
音楽＝堀沢広幸　音響効果＝石井隆
衣裳＝宮岡増枝　方言指導＝蒔田祐子
演出助手＝清原達之　舞台監督＝松橋秀幸
製作＝広瀬公乃

あらすじ

被爆者を祖父母に持つ高校一年のメグミは美術部員。顧問の岡田が持ち込んだ「被爆証言を聞いて絵に描く」取り組みに、迷いながらも参加することを決める。東京から引っ越してきた同じ美術部員のナナは友達と遊ぶよりも絵を描くことが大好きで、漫研と兼部しているアツトが気に入らない。岡田の提案で被爆証言は三人で聞くことになり、証言者・白井の話を聞いて心を突き動かされる三人。だが、ある日ナナが学校に来なくなって…。

感想

70 年間も言えなかった思いを伝える辛さというのは私たちには計りえないもので、演劇という形で少しでも分かって良かったです。（高校生）

特に印象に残っているところは皆が戦争の話を聞いて、「恐くないの？」と聞かれて「怖いけど、それ以上に描きたい。絵に残したい」と言ったところです。知らないことほど怖いものはないと思うので知らないことは自分で調べて、また詳しい人に聞いて自分の知識を深めていきたいと思いました。（高校生）